



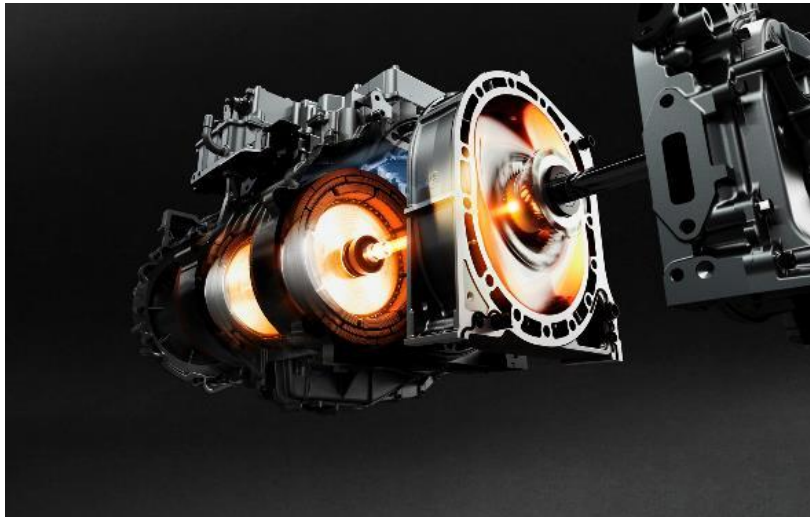
2024年2月1日

マツダ、新時代に適合したロータリーエンジンの研究開発を加速

—2024年2月1日付で約6年ぶりに「RE開発グループ」を復活—

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、時代に適したソリューションによってクルマが持つ楽しさをお届けし続けるために、新しい時代に適合したロータリーエンジン(以下、RE)の研究開発を加速させていきます。

REの新しい物語の序章として、2024年2月1日付で、パワートレイン開発本部パワートレイン技術開発部に「RE開発グループ」を復活させました。新生のRE開発グループでは、REを発電機用として継続的に進化させ、主要市場での規制対応やカーボンニュートラル燃料対応などの研究開発に取り組みます。



MAZDA MX-30 Rotary-EV 電動駆動ユニット

本件について、取締役専務執行役員兼 CTO(最高技術責任者)の廣瀬 一郎(ひろせ いちろう)は、「マツダの歴史において、REは『飽くなき挑戦』を象徴する特別な存在です。これまでREを支えていただいたすべての皆さまに心から感謝申し上げます。このたび、世界中の皆さまに愛されてきたREを開発する組織を復活させました。今日までの約6年間、RE技術者は最先端の内燃機関の機能開発や究極の効率改善を掲げるエンジン開発の組織に属し、エンジン方式の垣根を越えてその視座を広げ、またマツダの強みの一つである『モデルベース開発』の使い手として鍛錬してきました。このたび36人の技術者が一つのグループに集結し、REの研究開発でさまざまな壁をブレークスルーするスタートを切ります。電動化時代そしてカーボンニュートラル社会においても、『飽くなき挑戦』で皆さまにワクワクしていただける魅力的なクルマをお届けすることをお約束します」と述べました。

ロータリーエンジンは、三角形のローターが回転することによって動力を生む独自の構造をもつエンジンで、マツダは 1967 年に導入した「コスモスポーツ」に RE を初めて搭載し、その後も長年にわたりロータリーエンジンを量産する唯一の自動車メーカーとして、出力、排気ガス浄化、燃費、耐久性などの性能向上に取り組んできました。2023 年 6 月には、2012 年に「MAZDA RX-8」の生産を終了して以来約 11 年ぶりに、ロータリーエンジン搭載車の量産を再開しました。現在、12 車種目のロータリーエンジン搭載車種の「MAZDA MX-30 Rotary-EV」を日本や欧州に導入しています。

マツダは、今後も「ひと中心」の価値観のもと「走る喜び」を進化させ続け、お客さまの日常に移動体験の感動を創造し、「生きる喜び」をお届けしていくことを目指してまいります。

以 上